

経営比較分析表（平成28年度決算）

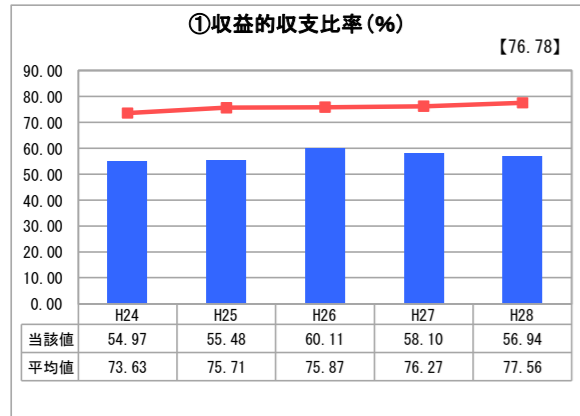
岡山県 津山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	4.58	2,484	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
102,962	506.33	203.35
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,688	20.50	228.68

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



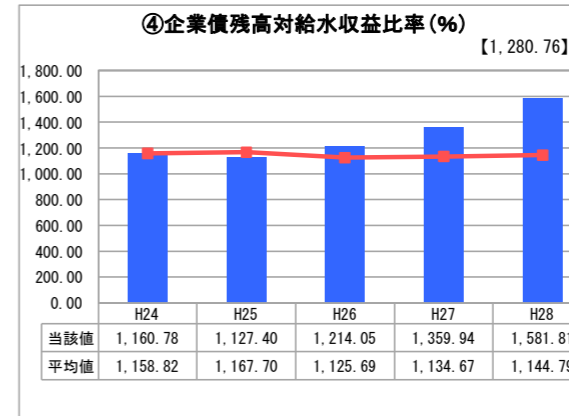
「単年度の収支」



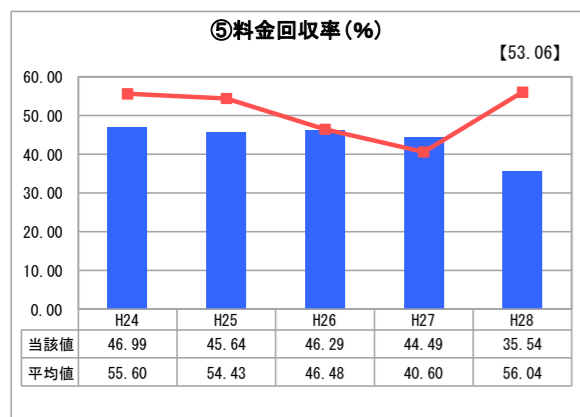
「累積欠損」



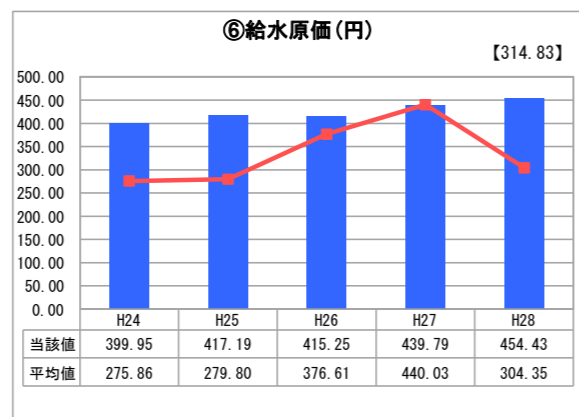
「支払能力」



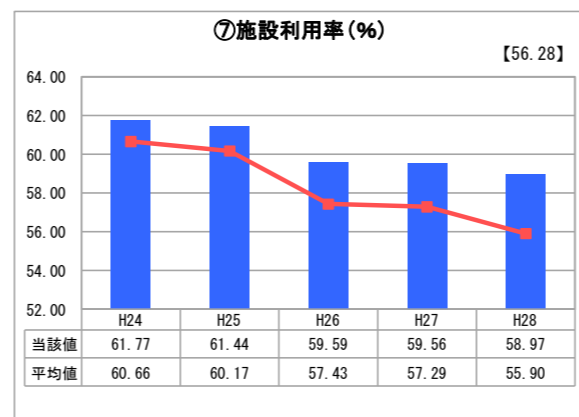
「債務残高」



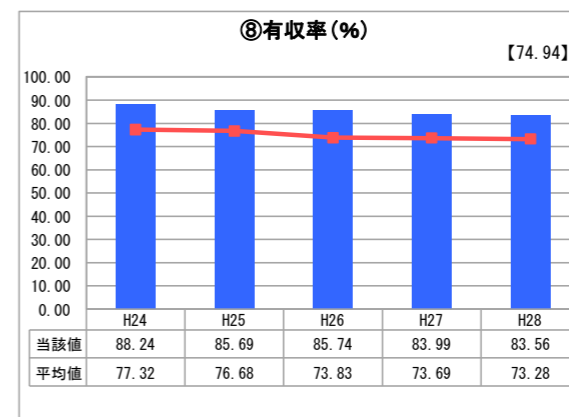
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

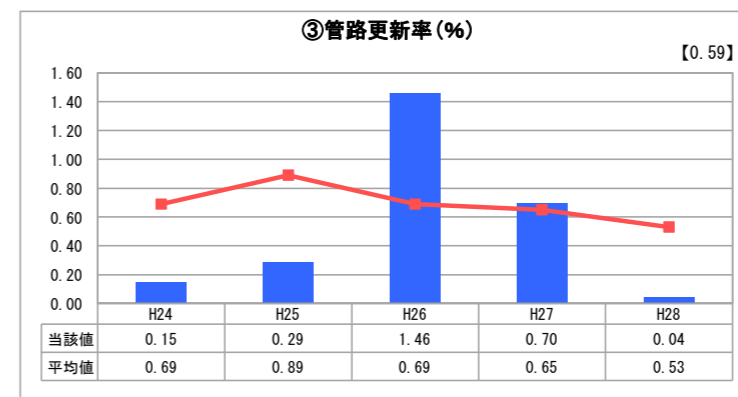
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%を大きく割り込んでおり健全経営とは言いがたい状況にある。類似団体も同様の傾向はあり簡易水道事業の運営の傾向となっている。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較して高い状況となっている。これは、平成29年度から上水道事業との経営統合による打ち切り決算により、給水収益が減ったことによるものである。

⑤料金回収率についても、打ち切り決算により、給水収益が減ったことに伴い、供給単価が下がったことによるものである。平成29年度からは上水道と同料金としたことなどでの経営改善を図ってきたい。

⑥給水原価については、年々上昇している。これは、施設規模が小さいこと及び給水量の減少に伴うものであり、経営上課題がある。

⑦施設利用率は、低下傾向であるが、類似団体よりも効率性は高い。

⑧有収率は、ここ数年横ばいで推移しており、類似団体と比べ高い水準にあり、配水の効率性は一定程度保たれている。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率については、平成28年度末現在で、更新が必要な管路はすべて対応済みであるが、今後必要な時期には、年次計画により順次更新を行う。

全体総括

簡易水道事業は地形、地勢等の悪条件と共に施設規模が小さいこと等から収益性の極めて低い事業となっているが、平成29年度から上水道事業と経営統合しており、今後は上水道事業として、コスト縮減に取り組む必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。